

2022年9月 キューバ情勢

【概況】

1 内政

- (1) デング熱対策ワーキンググループの開催
- (2) 市議会議員選挙の公示
- (3) 国民投票で家族法改正案が承認
- (4) ハリケーン・イアンのカューバ西部上陸

2 外交

- (1) ペニャルバル外務第一次官のカンボジア、ラオス訪問
- (2) ラムディン・スリナム外相のカューバ訪問
- (3) ウマロ・シソコ・エンバロ・ギニアビサウ大統領のカューバ訪問
- (4) チャップマン副首相のケニア訪問
- (5) バルデス・メサ副大統領のアンゴラ訪問
- (6) バルデス・メサ副大統領の英国エリザベス女王国葬参列
- (7) ロドリゲス外務大臣の国連総会出席
- (8) 在キューバ米国大使館による対キューバ人移民査証発給業務の全面再開の発表
- (9) フン・セン・カンボジア首相のカューバ訪問
- (10) マレーロ首相の訪日
- (11) マレーロ首相のベトナム訪問

3 経済

- (1) キューバの砂糖生産量、減少の見込み
- (2) インドとの経済・金融関係強化
- (3) 米国による対キューバ経済制裁の事例

4 保健

- (1) 新型コロナウイルス感染状況等（※9月30日時点、保健省発表）
- (2) キューバにおけるサル痘感染状況

【本文】

1 内政

- (1) デング熱対策ワーキンググループの開催

6日、ディアスカネル大統領はデング熱をはじめとする感染症対策のためのワーキンググループを主宰し、マレーロ首相、バルデス・メサ副大統領、共産党政治局員等が参加した。

会合では、デング熱のリスクが国内で高まっており、デング熱対策に最優先で取り組むことが確認された。１４日にもディアスカネル大統領は同ワーキンググループを開催し、感染者は減少傾向にあるものの適切な対応の重要性につき確認した。

（２）市議会議員選挙の公示

６日、国家評議会は、人民権力市議会議員を本年１１月２７日に実施する旨公示。

（３）国民投票で家族法改正案が承認

２５日、家族法改正案の賛否を問う国民投票が実施され、過半数が賛成票を投じ承認された。２６日、バルセイロ全国選挙委員会委員長は、暫定投票結果を発表。

- ・投票者数：６，２５１，７８６人（基本選挙人名簿８，４４７，４６７人の７４．０１％）
- ・有効票数：５，８９２，７０５人（有権者の９２．２５％）
- ・賛成票数：３，９３６，７９０票（有効票数の６６．８７％。）
- ・反対票数：１，９５０，０９０票（有効票数の３３．１３％。）

この結果を受けて、ディアスカネル大統領は２６日付ツイッターで、「正義は実行された。この法律を何年も待ち望んできたキューバ人男女数世代への負債を返済することになる。今日から我々は、より良い国になる」と述べた。

（４）ハリケーン・イアンのキューバ西部上陸

２６日から２７日にかけてハリケーン・イアン（キューバ上陸時点でカテゴリー２、キューバ通過中にカテゴリー３）がキューバの西部を直撃し、大きな被害が生じた。ハリケーンによる死者は３名。２７日夕方、国内への配電システムが損傷し、一時国内全域で電力供給がゼロとなった。通過直後、ディアスカネル大統領は被害が甚大だったピナール・デル・リオ県に入り陣頭指揮を執ったが、その後、キューバ政府はピナール・デル・リオ県の復旧対策の責任者としてエスピノサ革命軍事次官（政治局員）を任命した。被害に対して、メキシコは合計１１３トンの電力復旧のための資材を供与した他電気技師を派遣。ベネズエラは食料、屋根材、変圧器等を供与。世界保健機構（ＷＨＯ）／汎米保健機構（ＰＡＨＯ）は、ピナール・デル・リオ県に対し、合計８トンの医療品を供与。アルゼンチンは、９５万リットル分の浄水錠、簡易調理セットの送付を決定したと発表した。

２ 外交

（１）ペニャルバル外務第一次官のカンボジア、ラオス訪問（８月３１日－５日）

８月２８日から同３１日までベトナムを訪問したペニャルバル外務第一次官は、続いて３日までカンボジアを訪問。ウィッ・ボリット国際協力省長官、ブラック・ソコン・カンボジア王国外務国際協力大臣と会談し、保健や教育等の分野における伝統的な協力関係を確認するとともに、更なる二国間関係強化の意志を再確認した。３日から６日までではラオスを

訪問。ソーンサイ・シーパンドン副首相と会談し、共通の関心事項における更なる協力関係を確認した他、両国外務省間政策対話が実施され、2025年までの協力覚書に署名した。

(2) ラムディン・スリナム外相のキューバ訪問（8日－9日）

8日、ロドリゲス外相及びディアスカネル大統領とそれぞれ会談。会談でディアスカネル大統領は、米国による対キューバ封鎖との闘いにおけるスリナムからのあらゆる支援に謝意を表明するとともに、スリナムとの友好関係強化につき確認した。ラムディン外相は長年にわたるキューバとの協力関係に対し謝意を表明した。

(3) ウマロ・シソコ・エンバロ・ギニアビサウ大統領のキューバ訪問（8日）

8日、ディアスカネル大統領は、ウマロ・シソコ・エンバロ・ギニアビサウ大統領と会談し、両首脳はアフリカの独立闘争に遡るギニアビサウとキューバの歴史的な関係を振り返り、さらなる二国間関係の強化と経済関係の活発化を確認した。

(4) チャップマン副首相のケニア訪問（12日－14日）

13日に実施されたルト・ケニア新大統領就任式に出席するためケニアを訪問。14日にはルト大統領と会談し、二国間の協力関係を強化にかかるキューバ側の意志を表明した。その他、ウェタンウラ国会議長と会談し、二国間の医学の分野で協力強化を確認した他、ケニア在住のキューバ人医師グループ等と交流した。

(5) バルデス・メサ副大統領のアンゴラ訪問（14日－16日）

14日に実施されたジョアン・ロウレンソ大統領就任式に出席。

(6) バルデス・メサ副大統領の英国エリザベス女王国葬参列（19日）

19日に開催されたエリザベス女王の国葬にキューバ代表としてバルデス・メサ副大統領が参列。18日のチャールズ国王夫妻主催のレセプションにも出席した。エリザベス女王の逝去に際しては、ディアスカネル大統領がチャールズ国王、英国国民及び政府に対し哀悼の意を伝えた他、在キューバ英国大使公邸ではマレーロ首相が弔問記帳を行った。

(7) ロドリゲス外務大臣の国連総会出席（19日－24日）

ロドリゲス外務大臣は第77回国連総会出席のため訪米。中国、インド、ロシア、メキシコをはじめとする、約20か国とバイの外相会談を行った他、CELC及びカリブ諸国連合との外相会談に出席した。ロシアのラブロフ外相との会談では、来年の両国外務省間の政策協議計画に関する文書に署名した。アナヤンシ・ロドリゲス外務次官等が同行。

(8) 在キューバ米国大使館による対キューバ人移民査証発給業務の全面再開の発表

21日、在キューバ米国大使館は、「安全で秩序ある人道的かつ定期的な移住を促進する」ため、2023年初頭から、2017年から中断していた米国への移住を希望するキューバ人に対する移民査証の発給業務を再開する旨発表した。この発表に対して、ロドリゲス外務大臣はツイッターで、「前向きな一歩」と評した。

(9) フン・セン・カンボジア首相のキューバ訪問（23日－25日）

23日から25日、フン・セン首相がキューバを公式訪問。24日、ディアスカネル大統領と会談し、カンボジアとの地理的な距離が決して友好の距離にはならないこと、むしろ政治、商業、経済、協力関係を強化し続ける意志を確認した。フン・セン首相は、「フィデル（・カストロ元国家評議会議長）と私の関係は、父と息子の関係」と述べ、カンボジアの帝国主義との闘い、その後のキューバ政府によるカンボジアへの支援に謝意を表明した。会談には、カンボジアからブラック・ソコン外務国際協力大臣、ハン・チュンナロン教育青年スポーツ大臣、モーム・ブンヘーン保健大臣、キューバからソボリド高等教育大臣、ポルタル保健大臣等が同席し、医療、スポーツ、外交官学校間の協力分野における二国間協定に署名した。25日にはラウル・カストロ前革命司令官と会談し、両国が1960年に国交を樹立して以来維持してきた歴史的な関係に言及し、特に長年にわたって培われた関係の柱として、医療連携があることを強調した。

(10) マレーロ首相の訪日（26日－28日）

27日に開催された安倍元総理の国葬儀に参列するため訪日。ビダル外務次官、ブランコ同アジア大洋州局長等が同行。27日の国葬儀参列の後、マレーロ首相一行は迎賓館にて岸田総理に挨拶した他、28日には岸田総理と首脳会談を実施。また、滞在中、古屋・日キューバ友好議連会長との会合、キューバとの友好・連帯組織との会合、日キューバ経済懇話会との会合、エネルギー及び観光関連の会合等の日程をこなした。

(11) マレーロ首相のベトナム訪問（28日－10月1日）

マレーロ首相にとって初めてのアジア諸国（ベトナム、ラオス、カンボジア）公式訪問の一環。29日は、グエン・スアン・フック国家主席、ファム・ミン・チン首相、グエン・フー・チョン党書記長及びヴオン・ディン・フエ議長と個別に会談した他、二国間経済関係促進に関する協定（マルミエルカ外国貿易・外国投資大臣及びグエン・タイン・ギー建設大臣間）、農業食品分野での協力に関する協定（ペレス農業大臣及びLe Minh Hoan 農業・農村開発大臣間）、保健分野における協力協定（ポルタル保健大臣及びダオ・ホン・ラン保健大臣代理間）等への署名式が行われた。30日には、両国間のビジネスフォーラムが開催され、マリエル経済特別区における電力分野での協力、バイオ医薬品の分野において長期的な連携を継続するため等の覚書が締結された。その後、マレーロ首相はホーチミン市を訪問し、グエン・ヴァン・ネン・ホーチミン市党第一書記との会を行った他、クチ地下トンネルとサ

イゴンハイテクパークを訪問した。

3 経済

(1) キューバの砂糖生産量、減少の見込み

1日、22年－23年期の砂糖収穫に向けた政府対策会議が開催され、ディアスカネル大統領は、前回期より少ない23の製糖工場が稼働予定であると述べ、「効率的で、安定した生産を保証するための資源を確認する必要がある」とした。また、ガルシア砂糖公社(AZCUBA)社長は、次回収穫期は砂糖産業の「新しいビジネスモデル」を試すことになる」と述べ、客観的かつ柔軟に計画に基づき、小規模ながらも優れた手法で、少ない工場に資源を集中させ、効率を高めることが不可欠と指摘した。また、次回収穫期には45万トンの砂糖生産を目標としている旨述べた(前回収穫量は目標値約91万トンのところ47万3千トン)。

(2) インドとの経済・金融関係強化

9日、キューバを訪問中のアシフ・イクバル・インド経済貿易機構(IETO)会長は、食品製造、電子機器などの分野でキューバと商談を開始した旨述べた。滞在中、外務省、農業省、保健省、食糧産業省との会談を実施。最近、キューバ中央銀行関係者がインドを訪問したことを想起し、金融分野での協力関係確立の可能性についても言及した。インド・キューバビジネスフォーラムでは12社のインド企業が約40社のキューバ企業と交流した。

(3) 米国による対キューバ経済制裁の事例

27日、米財務省外国資産管理局は、スイスに本社を置く資産管理を専門とする CA Indosuez Switzerland S.A. (CAIS) が、キューバ、ウクライナ、イラン、スーダン、シリアに対する米国の制裁措置に違反したとして、72万ドル以上の罰金を課し、それに対して CAIS が右罰金の支払いに合意した旨発表した。

4 保健

(1) 新型コロナウイルス感染状況等(※9月30日時点、保健省発表)

ア 感染者累計：1, 111, 194名

イ 死亡者数：8, 530名(前月から変わらず)

ウ 全国での感染者数：28名

(3) キューバにおけるサル痘感染状況

キューバ保健省はプレスリリースを通じて、24日、キューバで3例目のサル痘患者発生が確認された旨発表した。3例目は前例とは全く関連性はなく、患者は27歳女性で、サル痘の症状があった米国在住のキューバ人と接触があったことが確認されている。